



ふれあい班活動

大藤小学校では、8つのふれあい班(1~6年生の縦割り班)の活動を通して、異学年との交流を深めながら、互いを思いやる心情を育てています。各班で、6年生が中心となり、大藤小フェスティバルや運動会など楽しい時間を過ごしています。この活動は十数年続いており、本校の伝統となっています。

大藤小フェスティバル

8つのふれあい班がそれぞれアトラクションを考え、準備や運営を子どもたちが行います。前半・後半に分かれて、ふれあい班ごとに8つのアトラクションを回り、みんなで協力して優勝をめざします。



運動会

8つのふれあい班が紅白2つのブロックに分かれて、さまざまな競走・競技種目で競い合います。特に、応援合戦では6年生の児童が中心となり、応援のパフォーマンスやグッズを考え、下級生に教えながら協力して応援を創り上げていきます。



この他にも、春の遠足、ふれあい給食、ふれあい地域清掃があります。全校での活動ばかりでなく、サツマイモ掘りなど複数学年でも活動しています。



福祉実践教室

十四山西部小学校では、毎年、市社会福祉協議会にご協力いただき、3年生~6年生の子どもたちが、福祉実践教室で「福祉」について学んでいます。昨年度は11月27日に実施し、障がいがある方やボランティアの方から話を聞き、体験活動を通して学習しました。子どもたちは「福祉」について学び、優しさや思いやりの気持ちを高めています。

「視覚障がい者ガイドヘルプ」3年生



3年生は、目に障がいがある方々に少しでも安心して歩いてもらえるよう、「手助けの方法」や「言葉がけ」を学びました。階段の上り下りや、曲がり角は細心の注意をはらい案内しました。狭い通路は、腕ではなく肩につかまってもらい先を歩くなどして、誘導の難しさと、目の不自由な方大変さを感じ、多くの子が学んだことを実践につなげたいとの意欲を持ちました。

「車椅子体験」4年生



4年生は、車椅子を体験しました。マットを使用した段差の上り下りでは、介助者が声をかけながら行いましたが、狭い幅の中での方向転換に苦労していました。また、スロープの移動では、下りのときは思った以上のスピードで進んだり、上りのときはなかなか上がっていかなかったりと、車椅子での移動の大変さと介助者の重要さを学ぶことができました。

「手話」5年生



5年生は、手話や指文字、口話などを体験しました。簡単な自己紹介やあいさつの仕方を覚え、講師の方に自分の思いが伝わったときには、どの子もうれしそうな表情でした。耳の不自由な方のご苦労を知るとともに、自分たちにできることがあれば、少しでも役に立ちたい、コミュニケーションをとりたいという気持ちを持つことができました。

「点字」6年生



6年生は、点字を打つ体験をしました。点筆の力加減が難しく、紙を突き抜いてしまったり、隣の穴に間違えて打ってしまったりして、子どもたちは「難しいね」と言いながらも、一生懸命取り組んでいました。文字を点字に写す大変さを知るとともに、目の不自由な方にとっての点字の大切さを学ぶことができました。